

松永怜一監督1984年ロス五輪日本代表ユニホーム

1984年夏季オリンピックロサンゼルス大会で、メダルを争う公開競技として初めて野球が実施されました。前年までに行われた予選で日本は出場権を得ることができませんでしたが、ソ連のボイコットにキューバも加わり欠場が決まったことを受け、野球競技の出場チーム数の変更があり、大会開催2か月前の5月31日、急遽日本の出場が決まりました。

法政大、住友金属で監督を務めた松永怜一氏が日本代表監督に就任。6月25日には社会人13人、大学生7人からなる日本代表を編成、それまでの平均年齢27歳から22.5歳と若手主体となりました。松永監督は、準備期間がない中で強化合宿を行い、「死力を尽くして戦おうという思いだけはととのった。

自己のもてる力を出しきり、チャレンジ精神でぶつかる意気込みだけは、若いチームに浸透した手応えがあった」と振り返っています。

初戦の韓国、準決勝の台湾と強敵を破り、決勝では開催国であり、ベースボールの母国アメリカに打ち勝ち、金メダルを獲得しました。「優勝は無欲の勝利であり、チーム一丸の勝利であり、決して最後まで諦めない耐久性のある精神力の勝利」と振り返りつつ、「試合の勝敗は練習場で決まる”野球の本道から入った基本的かつ正しい練習、科学的、計画的な練習。気力と粘りを養うための創意工夫ある練習。常に問題点を意識した練習。あすを考えたトレーニング。プレッシャーの中でのプレー…。そうした点を常に考える取

り組み方こそ、選手を、チームをはぐくむ基本的な姿勢ではないだろうか」と今後の課題をまとめています。(出典「日本野球連盟報1984年」)

松永氏は2007年に野球殿堂入り。今年の5月12日に90歳で亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。

公益財団法人 野球殿堂博物館
学芸員 関口貴広

